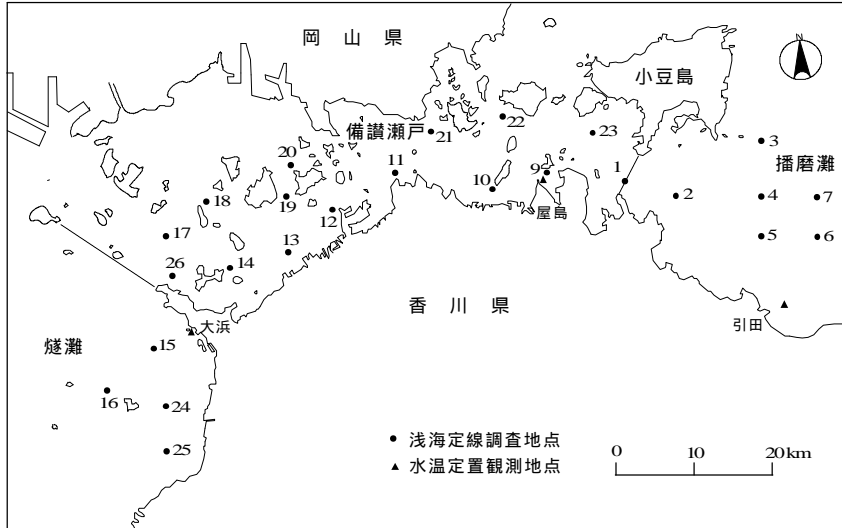


# 香川県漁海況速報 平成20年9月(H20-6号)

香川県水産試験場

## 1. 海況

### 1) 観測地点



### 2) 浅海定線調査

#### (1) 調査日

平成20年9月2日(播磨灘) 1日(備讃瀬戸、燧灘)

#### (2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「平年並み」、塩分は「やや高めからかなり高め」、透明度は「平年並み」、溶存酸素は「やや低めからかなり高め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度 (m)	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層		表層	底層
播磨灘	7地点平均値	27.1	26.4	25.3	32.4	32.4	32.5	8.8	4.40	3.88
	平年値	26.7	26.1	25.1	31.7	31.7	31.9	7.9	4.44	2.99
	平年偏差	0.4	0.3	0.2	0.7	0.7	0.6	0.9	-0.04	0.89
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	かなり高め
備讃瀬戸	14地点平均値	27.1	26.9	26.9	32.7	32.7	32.7	4.3	3.90	3.72
	平年値	26.8	26.5	26.4	31.6	31.7	31.7	4.3	4.23	4.00
	平年偏差	0.3	0.4	0.5	1.1	1.0	1.0	0.0	-0.33	-0.28
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	やや低め	やや低め
燧灘	4地点平均値	27.5	26.2	25.1	33.1	33.1	33.1	11.2	4.37	3.33
	平年値	27.6	26.2	24.7	31.7	32.0	32.2	10.3	4.54	2.69
	平年偏差	-0.1	0.1	0.4	1.4	1.0	1.0	0.9	-0.17	0.64
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	かなり高め	かなり高め	平年並み	平年並み	やや高め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年(1973)1月～平成13年(2002)12月

溶存酸素：昭和48年(1973)2月～平成13年(2002)12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	( : 標準偏差 )
やや高め(やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め(かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め(著しく低め)	2.0	平年偏差	

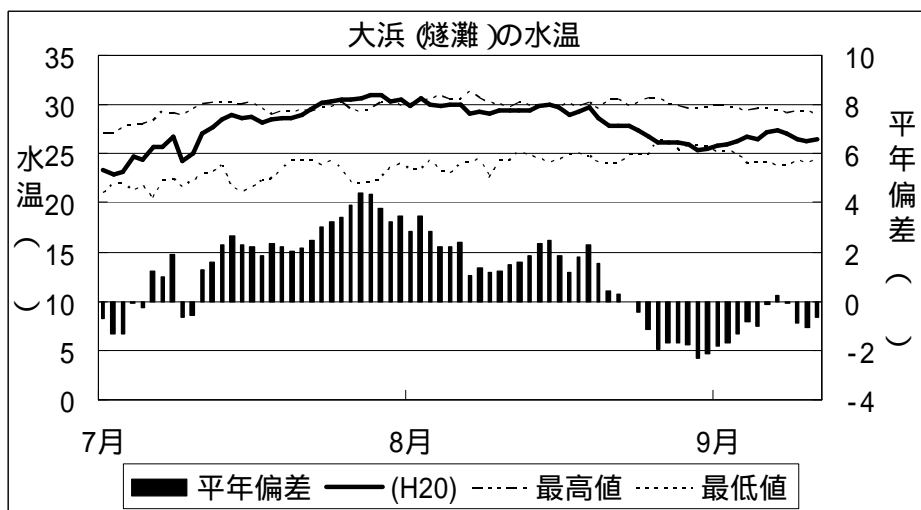
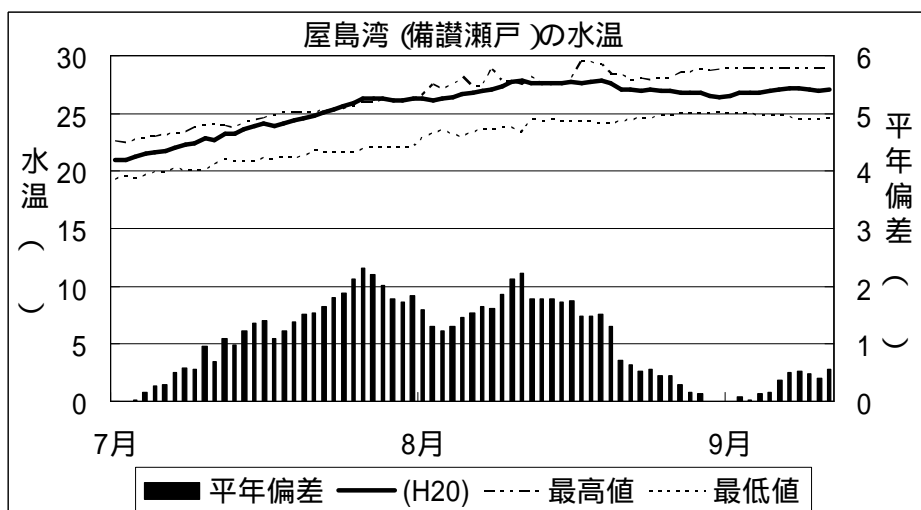
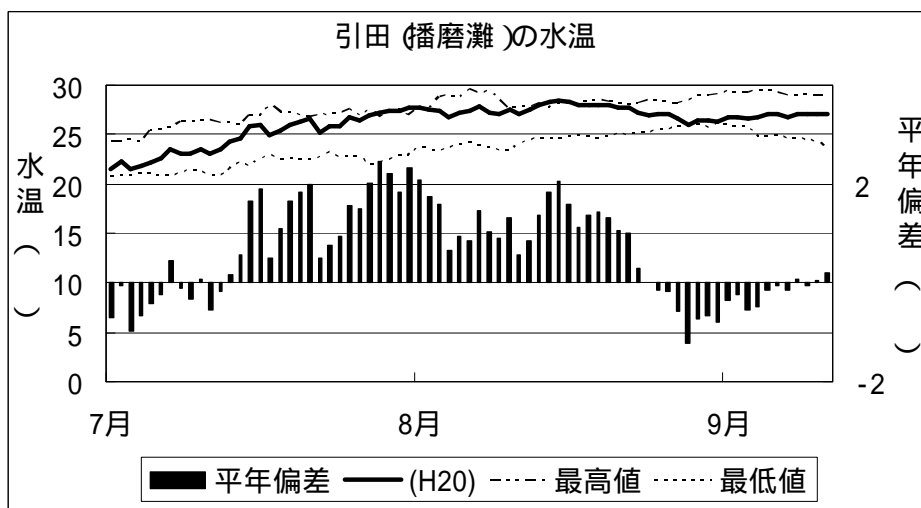
### 3) 定量観測 (水温)

播磨灘 (引田): 8月上・中旬はやや高めからかなり高め、8月下旬以降はやや低めから平年並みで推移している。

備讃瀬戸 (屋島): 8月上・中旬はかなり高めから著しく高め、8月下旬以降は平年並みからやや高めで推移している。

燧灘 (大浜): 8月上・中旬はやや高めからかなり高め、8月下旬以降は著しく低めから平年並みで推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元 (1989) ~ 平成 19 (2007) 年  
屋島: 昭和 50 (1975) ~ 平成 19 (2007) 年



#### 4) 赤潮(8月12日~9月18日)

播磨灘：8月12日から14日まで内海湾でカーレニア・ミキモトイによる赤潮が発生、9月2日にさぬき市津田町地先でメソディニウムによる赤潮が発生した。

備讃瀬戸：8月13日から14日まで北西部(水島灘南部)においてカーレニア・ミキモトイによる赤潮が発生した。

燧灘：発生なし。

#### 5) 卵稚仔

調査日：平成20年9月2日(播磨灘) 1日(備讃瀬戸、燧灘)

出現量

カタクチイワシ卵の出現量は平均3.00個/曳網(対平年値31.1%)であった。

## 2. 漁況

8月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では、主に小型エビ類、イボダイ、ハモ、クルマエビ等が漁獲されている。</p> <p>建網では、主にキュウセン、シロギス、マダイ、メバル、ネバゴチが漁獲されている。</p> <p>定置網では、主にマアジ、マルアジ、ウルメイワシ、スズキ、カワハギ、タチウオが漁獲されているが、全般的に低調である。</p> <p>東讃のシラス船曳網の8月の漁獲量は、多かった前年と比べると約半分と少なかったが、平年(89-04)の約2.5倍であった。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では、主にウシノシタ類、メイタガレイ、マダイ、小型エビ類、マダコ、イイダコが漁獲されている。</p> <p>マナガツオ流し刺網は9月に入っても漁獲が続いているが、8月の漁獲量は前年を下回った。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主にイボダイ、アカカマス、タチウオ、小型エビ類、トリガイ、ガザミ、マダコ、クルマエビが漁獲されている。</p> <p>イワシ機船船びき網の8月までの漁獲量は、前年の約1.3倍の5,400トであった。8月下旬から中羽主体の漁獲が続いている。</p>